

# 第3回 生物多様性 日本アワード 授賞式のご案内

2013年10月29日(火) 13:30  
会場：国際連合大学 ウ・タント国際会議場

主催：公益財団法人イオン環境財団  
後援：環境省 国連生物多様性の10年日本委員会  
株式会社共同通信社、朝日新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

## プログラム

### 1. 授賞式 13:30～14:30

- ◆主催者挨拶
- ◆優秀賞表彰
- ◆グランプリ発表
- ◆審査員講評

### 2. 受賞者プレゼンテーション 14:40～15:30

### 3. 記念講演 15:30～16:30

「自然化社会をデザインする」  
株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所  
代表取締役所長 赤池 学



## 第3回 生物多様性 日本アワード 授賞式

📍 日時：2013年10月29日(火) 13:30  
受付開始 13:00

📍 会場：国際連合大学 ウ・タント国際会議場  
東京都渋谷区神宮前5-53-70

#### 【お申込み方法】

ご招待状とハガキが同封されている場合は、ハガキにてお申し込みください。それ以外の場合は、下記のイオン環境財団ホームページの応募フォームから、お申し込みください。なお定員になり次第、受付締切りとなります。 <http://www.aeon.info/ef/>

#### 【お問い合わせ】

公益財団法人 イオン環境財団 〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1丁目5番地1  
TEL:043-212-6022 FAX:043-212-6815 E-mail:ef@aeon.info

JR渋谷駅から徒歩10分。  
東京メトロ 表参道駅 B2出口(銀座線、半蔵門線、千代田線)から徒歩5分。  
※国連大学本部に向かって左手にこどもの城、青山通りをはさんだ向かいには青山学院大学があります。  
※国連大学本部ビル内に駐車場はありません。



## 第3回 生物多様性 日本アワード 授賞式のご案内

「生物多様性 日本アワード」は2010年に生物多様性第10回締約国会議(COP10)が日本(名古屋)で開催されるのを契機に、生物多様性の「保全」及び「持続可能な利用」を推進することを目的に創設したものです。

今年で第3回目となる「生物多様性 日本アワード」は公募を実施し、審査委員会による厳正な審査に基づき5件の優秀賞を決定しました。授賞式では優秀賞の表彰、ならびにグランプリの発表を行います。本アワードが、日本における生物多様性に関する様々な取り組みと共鳴し、生物多様性に関する認識のさらなる向上や、活動の進展の一助となりましたら誠に幸いです。

公益財団法人 イオン環境財団  
理事長 岡田卓也

### 優秀賞

- ◆取組名: 太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と一連の協働・普及啓発活動
- ◆受賞者名: 味の素株式会社
- ◆受賞内容: 太平洋のカツオ資源を見守り、持続的な維持に貢献することを目的とし、2009年度より、(独)水産総合研究センター国際水産資源研究所との共同事業として、西日本太平洋沿岸海域においてカツオの標識放流調査を継続実施。未だわかっていないことが多いカツオの生態(回遊行動など)についての理解を深めるべく、南西諸島海域においてカツオの標識放流調査を行っている。2012年度には、黒潮源流海域で初となる累計約500日間にわたる遊泳行動の詳細データの把握に成功。調査で得られた成果は、学術、国内水産行政、国内・国際漁業管理の面において重要であり、各種関連学会や水産関係者会議、また中西部太平洋資源管理機関に報告された。

- ◆取組名: 津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興
- ◆受賞者名: 特定非営利活動法人 田んぼ
- ◆受賞内容: 宮城県気仙沼を始め、塩竈、南三陸、岩手県陸前高田を中心に生態系の復元力を活用した自然農法のシステム(ふゆみずたんぼ)で津波被災地の田んぼの復興を実現。1200名を超える多様なボランティアを被災地に導入し、手作業で田んぼの復興を試み、抑塩にも成功。被災した年の秋から豊かな収穫を享受するに至った。また各地の生物多様性、水質、土壌成分の科学的なモニタリングにより、津波多発地帯の「津波被災後の農地は豊かになる」という言い伝えを科学的に証明。現地の信頼を得ながら継続的に津波被災地の田んぼを復元した。生物多様性の向上とともに、6次産業も含めた持続可能な経済システムが作り上げられつつある。

- ◆取組名: 「竹紙(たけがみ)」の取り組み
- ◆受賞者名: 中越パルプ工業株式会社
- ◆受賞内容: かつてのように利用されることが少なくなった日本の竹を製紙原料として1998年より集荷を開始。試行錯誤の末、現在では九州地区を中心に年間2万トンを超える竹を紙の原料としている。竹を大量に活用していくことで、成長力の旺盛な竹の里山や森林への侵食を防ぎ、生物多様性保全に貢献する。また、これまで価値がなかった竹を買い取ることで、深刻な過疎の農村地域において地域経済や雇用に貢献している。何よりも、放置竹で荒らされた山がきれいになったと喜ぶ地域住民が増えている。紙の製造という本業を通じて、全国的に解決困難な社会的課題である放置竹林問題に挑戦している。

- ◆取組名: 綾の照葉樹林プロジェクト
- ◆受賞者名: てるはの森の会
- ◆受賞内容: 綾の照葉樹林プロジェクトは、九州森林管理局、宮崎県、綾町、(公財)日本自然保護協会、てるはの森の会の5者が協働して、約1万haのエリアにおいて国内最大面積の照葉樹林(約2500ha)を保護しているプロジェクト。二次林や人工林を照葉樹林に復元すること、自然と共生した地域づくりを支援することを目的としている。日本の国有林では、2例目となる官民学協働プロジェクトの運営を担う事務局で、プロジェクトと市民を結ぶ窓口として、ボランティアと共に間伐体験、ガイド事業、林床調査、研究フォーラム等の多くの活動を行っている。

- ◆取組名: ネイチャー・テクノロジー創出のシステム構築
- ◆受賞者名: ネイチャー・テクノロジー研究会(東北大学大学院 環境科学研究科)
- ◆受賞内容: 環境問題の解決のためには、従来の延長(フォアキャスト)ではなく、バックキャスト思考で心豊かなライフスタイルを描き、それに必要なテクノロジーを、完璧な循環を最も小さなエネルギーで駆動する自然から学び、新しい技術やビジネスを創出していく必要がある。ネイチャー・テクノロジー研究会は、テクノロジーを自然に学ぶだけではなく、人と自然の関わりをバックキャストや90歳ヒアリングで深く観、自然をさらに科学してその叡智を学んで活かすための研究と実践である。現在、多くの企業、地方自治体などを巻き込んで、研究・実践(ビジネス、政策開発)を行い、また、子供たちや社会人への教育活動も積極的に進めている。